

## 公開授業研究会 小学部記録

### 1 組 遊びの指導 「さわって あそぼう」

Q. 単元の流れは年間で意識していると思うが、今回の題材全8時間のうち本時は3時間のうちの最後だが、3時間で足りたかのか。また、その中で子ども達には何か変化はあったか。

A. 開始当初から何度か試行錯誤した。友だちの様子が見えるように席を配置したり、ダイナミックな遊びができるように物の置き場所を工夫したりした。やりたい物へ移動したり、できた物を見せて遊んだりすることで、友だちと自然にかかわれるようになった児童もいた。

Q. 遊びの種類が多くて良かった。3か所の題材のうち、椅子があるところとないところがあったが何かあるのか。

A. 一か所にとどまらずにダイナミックに遊ぶ児童もいるので、椅子が必要なくなったところもある。

Q. 3種類の題材を子どもが好きなように変えてもいいのか。

A. これをやるように、と大人が決めてはいない。提示して見せて「これどう？」と誘ったりすることはある。

Q. 自分のクラスにも、やはり異食や拾い食べしてしまう子がいる。やめさせたいので、自分の授業では敢えて陶芸用のまぜい粘土を使って粘土遊びをしたが、今回のこちらはどうだったか。

A. 当然、異食や拾い食べは良くないことと指導している。今回については、遊びを思う存分楽しむことに重点をおいているので、安全性と積極性を重視して取りくんだ。授業の内容や場面によっては切り替えて指導していく。

Q. 感触遊び以外で、他の遊びの活動はどのようなことをやっているか。

A. 教育実習生がいる時は「祭り」をテーマにしてボーリング、魚釣り、もぐらたたき等を場を設定して行なった。夏場は水遊び、しゃぼん玉遊びをし、年度当初は、築山で段ボール遊びやトランプポリンなど、ダイナミックな遊びも行なった。

Q. 各素材の材料を今一度教えてほしい。

A. ゼリー：粉寒天、水、食紅

粘土：小麦粉粘土

スライムもどき：片栗粉、水、食紅



そのほか、たくさんの質問・意見をいただきました。ありがとうございました。

### 2 組 生活単元学習 「だいでつくってたべよう～おからクッキー～」

Q. 今日の授業を見ると「1組が個々の感覚あそび、2組が協力、3組が感謝の気持ちを表す」のように流れができて良いと思った。生単を計画するにあたって、学校で押さえているのか。また、前の学年とのつながり等で、気をつけていたり工夫していたりする点は何か。

A. 学校として明確におさえている訳ではないが、実態をふまえて段階的になるように内容を決めている。生活年齢、発達段階、クラスのメンバーの等を踏まえて単元の内容を考え、その都度その子たちの伸ばしていきたい力を明確にして決めている。



Q. 豆腐作りはとても楽しい題材だと感じた。作業の工程はどういったものか。

A. 大豆を水に浸す、粉砕、煮る、絞る（豆乳）、豆乳を温める、にがりを入れ固めるという工程。児童は同じ手順で繰り返し行っているのので、支援がなくても自分でできる部分が多くなってきている。

Q. 同じ手順で繰り返しているから支援がいらなくなってきたのだと思うが、単元の最初に「約束事」を伝える時は、どういう指導をしたか。

A. 調理の経験は入学当初から積み重ねていて、身だしなみや衛生面など基本的な約束事は積み重ねている。調理内容等によって特別な約束事等は、単元の導入時に伝えている。



そのほか、たくさんのご質問・ご意見をいただきました。ありがとうございました。

3

### 3組 生活単元学習 「チームきらきら・ありがとうをとどけよう～きらきらファクトリー～」

Q. 振り返りが実際に入れてみてわかりやすい。協同の課題を作るための仕掛け、設定はどのように考えたのか。

A. 最初から2人組。「協同でやらないとずれてしまい1人ではできない」等の環境設定をした。ビデオでの演示も協同の動機づけ。対面じゃない方が、交換や言葉かけの協同がよりできたと思う。

Q. 対話的な学びは、どのようなやり方と考えたのか。子供の成長した姿は。

A. 協同ができる具体的な場面設定。ペアの子に適した言葉かけが出てきた。「～のために」という意識が出てきた。ビデオを見て自分で考えて言えた。

Q. 失敗した釘等の処理は子どもが行うのか、教員が行うのか。できそうな子供たちなので「人にあげるのにこれでいいか？」等投げかけるのもいいと思う。

A. 時間がなく教員が直す予定だったが、ぜひ取り組んでみたい。

Q. 何をもって主体的な学びと考えたか。構造化しても認知の重い子は自分から動けないと思うが、障害が重い子にとっての主体的な学びをどう考えるか。

A. 動機づけ、理解促進、環境設定が主体的な学びにつながる。好きなこと、人、環境を増やすことが学びに向かう姿勢につながる。好きな工程が増えていくといいから、簡単な工程にしている。手が出てくるだけで主体的な学びと見取ることができる。

Q. 簡単そうだが少ない支援で手順を理解して楽しく主体的に活動していた。くぎ打ちが上手だったがいつから取り組んでいるのか。

A. くぎはあまり経験がない。穴をあけて打ちやすくしている。



そのほか、たくさんのご質問・ご意見をいただきました。ありがとうございました。

## 公開授業研究会 中学部記録

### 1 中1 生活単元学習 「お店をひらこう～カフェでおもてなし～」

Q. 年間計画の立て方、テーマの決め方はどのように行っているか。

A. 新年度が始まった春休みに担任2人で話し合い計画を立てている。今年度は、生徒たちの好きそうなパンをテーマに決めた。ゴールとしてパン屋、カフェを行うをおおまかに設定し、少しずつゴールに向けて予定を立てた。

Q. お金のやりとりがあった方がリアリティがありそうだが、設定しないのはなぜか。

A. 中学部としての考えは、中学部段階では働く意義をお金をもらうことではなく、仕事に対するやりがいを見出してほしいと考えている。そのため、無償で提供し、人から「ありがとう」と感謝される経験を大事にしている。

Q. テーマに対する教員の専門性はどのように身に付けたのか。

A. パン作りは一からの挑戦で著書やインターネット等で調べて、実際に思考錯誤しながら試作を繰り返した。

Q. 自己肯定感の高まりによる生徒の変容はあったのか。

A. 活動に対する生徒の表情がいきいきとして、やる気が高まっている。自信をもって活動に取り組めるようになった。

Q. 予約制にしているのはなぜか。人がいない、多過ぎる、となる方がリアリティがありそうだが。

A. 1人が2杯作るを設定して取り組んできた。中1では、丁寧に調理することを大切に取り組んできたため、毎回同じような設定になるようにした。丁寧に作ることで、お客様から心からの言葉をもたらすことを大事にした。



そのほか、たくさんの質問・意見をいただきました。ありがとうございました。

### 2 中2 生活単元学習 「デイキャンプで もてなそう」

Q. 野外活動・キャンプはもともと中2で行う活動なのか。

A. 今年1年間の生活単元学習のテーマとして扱っている。中1の生活単元学習では、ラーメン屋を開店してお客さんをもてなす活動を行った。その中で、個々の力が伸びてきたものの、仲間と関わることに課題が見られた。そのため、仲間と一緒にやることで成立する必然性のある活動、仲間がいないと楽しめない活動ということで、野外活動を設定した。仲間と協力して活動する力が育ってきているので、続けていく。

Q. テントやタープ、バーベキューコンロは学校のものなのか。

A. 学校には、小さいテントが3つ、バーベキューコンロは学校のものである。1学期の宿泊学習は、



そのテントに宿泊した。その後何度かデイキャンプを行った際は、学校のテントを使用した。今回は、中で調理をして食べたかったので、広さのあるテントが必要だったため、教員のテントを借りて使用した。

そのほか、たくさんのご質問・ご意見をいただきました。ありがとうございました。

### 3 中3 生活単元学習 「校内実習をがんばろう」

Q. “働く体験”の校外学習を、誰がどのように設定するか。

A. 年間計画のテーマに応じて、生徒の実態に合った場所を担当が設定している。

Q. 中1、中2では“人のために”という意識を育てていると聞いた。校内実習の単元内ではどのようにその意識が生かされるのか。

A. 年間を通してテーマを持って生活単元学習を行っている。今年度は、「感謝」をテーマにして取り組んできているように、その年ごとに繰り返し伝えていくので、その意識は消えないのではないかと。

Q. 缶つぶしはつぶした本数をシールで貼っていて視覚的にわかりやすかった。缶洗い・プルタブ外しはどのように評価しているのか。

A. 数ではなく、姿で評価した。毎日、生徒の活動の様子を動画で振り返ることで、工夫したところや取り組んだ時間などを称賛した。

Q. 空き缶はどこから集めてきているのか。

A. 保護者が年間を通して持ってきてくださっている。(今年度校内実習でつぶした缶の数は 8500 本) 年度によっては埼玉大学へ回収に行くこともある。

Q. 空き缶つぶしの役割では、10 本つぶすごとに報告を行っていたが、生徒の実態に応じて 20 本、30 本つぶしたら報告という形にしても良いのではないかと。加えて、その報告は、実際の作業所のように教員も働き、その手を止めて行う形にしてはどうだろうか。また、10 日間の給料が 1000 円ということだが、社会に出たときにももらえるお給料としては少ないということ伝えてほしい。社会に出る際にどのくらいの給料をもらいたいかと問うと、少ない額を返答する生徒がいる。今回であれば、つぶした缶の換金総額を生徒に説明するなど、働くことでたくさんのお金がもらえることを説明するとよい。

A. 貴重なご意見をいただいた。来年度も引き続き校内実習単元は行われるため、意見として来年度に引き継ぎたい。



そのほか、たくさんのご質問・ご意見をいただきました。ありがとうございました。

## 公開授業研究会 高等部記録

たくさんの質問やご意見をいただきました。一部を紹介させていただきます。ありがとうございました。

### 1 高1 生活単元学習 「感謝の気持ちを伝えよう」

- 言葉遣いが全体的に丁寧でした。
- コミュニケーションに関する課題に、生活単元学習で取り上げて取り組んでいることが素晴らしいと思います。

Q. 友達の言葉かけをする生徒、その言葉かけに応じて取り組みを行う生徒がいるということが、とても参考になりました。作業内容や配置等でどのように工夫されているのですか？

- A. 作業内容は、一人だけで取り組むのでは少ししかできないものも力を合わせればたくさんできるという考えで、今回は「長い輪飾りができる」ということで設定してみました。また、生徒の実態はコミュニケーション面の課題のみで生徒を配置するのではなく、手指の巧緻性などの実態（得意な作業が違う）に応じて二人や三人で行うことでできる内容にしようと考えました。生徒の配置は、お互いの進行状況を見ることができ、言葉をかけられる距離感を考えて配置しました。

### 2 高2 生活単元学習 「3送会を成功させよう」

Q. 作業をもくもくで行うような授業だが、生徒が生き生きと取り組んでいるのが印象的でした。どのような工夫があるのでしょうか？

- A. 生徒は、「自分が何をやるのか。」「どれくらいやるのか。」が明確であることで取り組みやすくなると考えています。そのために、自分の分担された活動に使う道具や材料がわかるように顔写真や名前をつけておき、自分で道具や材料を準備することができるようにしたり、次の活動へ移りやすくしたりしています。

生徒が完成のイメージや、大きさ等の気をつけるポイントを理解しやすいように、実物と同じような色や形で「見本」や「手本」で提示し、必要な時にいつでも参考にすることができるように、ホワイトボードに掲示した状態にしています。

生徒の実態に応じて取り組みやすい道具（クラフトパンチの補助具）や画材（布用の塗料やクレヨン等のメーカーによって発色や使いやすさが違う）を用意しました。同じように、大きな掲示物、ランチョンマットへの細かな装飾なども、生徒の手指の巧緻性や集中の持続力などの実態に応じて分担をしました。

**Q. 同じ分担に取り組む生徒と途中で分担が変わる生徒がありますが、どのようにしているのですか？**

A. 生徒の実態や課題によって設定しています。一人の生徒が取り組める活動を複数設定しておき、手につかなくなったら変更を促したり、自分で選択したりすることができるようにすることで、活動に長い時間取り組めるようにしています。

また、現場実習など職業に関わる作業や技能面等での課題について、「丁寧さ」や「手早さ」などの目標をもつ生徒には、本授業でもその目標が達成されるような活動を長い時間取り組めるようにしています。

**Q. 道具が充実していると感じる。学級で持っているのですか？**

A. はさみ、のり等の道具は、学部の生徒が共有して使えるように、職員室に十分な数と量を用意しています。生徒に応じて使いやすい道具があるので、様々な道具が用意されています。

### 3 高3 生活単元学習 「卒業制作～行事予定表を作ろう！～」

○導入で、担任ではない教員から「こういうところが、いいところだった」という話があったことで、生徒たちも「評価してもらえた」と感じる事ができたと思った。所属校でもお世話になった気持ちを伝えられるようにしているが、どうすればいいのかわからないことも多い。その都度思い出させるなどできるようにしているが、この実践のように、実際に授業に来てもらって具体的にこれがよかったという話を聞くことは効果的な取り組みだと思い、参考になった。

**Q. デザインはどのように決めたのですか？色合いも非常にきれいでした。**

A. それぞれの月からイメージするものを、生徒が意見を出し合いました。描きにくいイメージも出てきましたので、タブレット端末で画像を探し、どれを描くか自分で決めるように促しました。主体性を持って取り組むために、自分で決めることや、自分で工夫を考えること、例えば、どうすればはみ出ないようにできるか？を自分で考えるということをやってきました。

**Q. 卒業制作の内容は迷います。他の学年ではどんなものがありますか？**

A. テーブルクロスに野菜スタンプで模様をつける、テレビカバー…などを紹介しました。

**Q. 生徒たちは、なかなか根気よくやっていたし、よく集中していた。自分のやりやすい方法など自分からやり方を考えている生徒もいて、効率良くするという工夫はすごいですね。絵が好きだからでしょうか？**

A. 自分で選択をさせる、活動の意味や理由がわかると集中することができるケースがあります。認識的に難しくても、「人が好き」という部分や、意思が伝えられるようになってきていることを活かし、かかわりの場面を設定し、それをきっかけに主体的に取り組む姿へとつなげるように考えた。

やらされているということではなく、人のためにがんばろうとの思いで、作る、書く、描くよう取り組んできました。

## お わ り に

副校長 神田 佳明

「今年度は、学校研究を一から考え直す年としたい」

そういった思いから、これまで連綿と続けてきた研究テーマを掲げての学校研究をいったん止めたうえで、附属学校として、本校として学校研究の在り方を研究する年としました。

附属学校を取り巻く環境は「はじめに」に触れてある通りであり、いわゆる有識者会議報告書では、附属学校の研究に取り組む姿勢は熱心であるが、その成果が見えにくいといった内容の記述がなされています。また、研究が地域をはじめとする貢献に寄与できていないという指標として、大学での活用がなされていない、教育委員会の理解が得られていないことを示す聞き取り調査の結果が示されてもいました。

本校も学校研究に対して多くの時間を割き、係を中心に研究協議会の企画・運営を進め研究協議会や研究集録を発刊すること等を通して研究成果の発信を熱心に進めてきたことは有識者会議の報告書に記述いただいた通りであります。一方、研究成果が活用されているか、という点でも指摘の通りかもしれません。

平成28年度から「一人一人が力を発揮し、活躍する授業づくり～実態把握からの目標設定と、評価のフィードバックを通して～」を学校研究テーマとして掲げ、教育実践研究のスタートを切りました。「子供たちが活躍する授業」を、教員が「子供たち一人一人が目標達成に向けて力を発揮する姿を引き出すための授業」と押さえた上で、目標をどのように設定することがよいのか？

目標を達成する効果的な手立ては？ そもそも子供達一人一人の実力やこれまで培ってきた力をどのようにとらえればよいのか？ そしてどう評価し、次の目標設定につなげていくか？ そのような観点から平成28年度、29年度は目標設定の在り方というポイントに絞って進めてきました。今年度は本来であればその次の段階である「評価をどう見取り、目標の再設定につなげていくか」にいくところでした。

教員の構成年齢がどんどん変化していく中、そして働き方改革の大きなうねりの中で、学校研究を進めながらの変革は難しいという判断から今年度のような学校全体研究の休止という形となりました。

そのため、これまでの研究推進係という係名を、研究企画係という名称に改め、従来の枠にとられない、新しい学校研究の進め方、研究成果の示し方を考えてほしい、と企画重視型にシフトをしました。研究協議会も今年度はあえて開催せず、公開授業研究会という名称で開催を進めてもらいました。本校の学校研究が日頃の教育実践にきちんと基づくものならば、公開する授業の中にきちんとそれが具現化されているはずだからです。そして参加人数よりも参加者の満足度、本校教員と参加教員との学び合いの場としての公開授業研究会をめざしました。

本冊子は、研究集録という名称で継続性を保っていますが、公開授業研究会という新たな取り組みの報告書という説明が一番ふさわしいかもしれません。

来年度、本校がどのような姿をお見せできるか、ご期待いただきつつ、今後ともご支援を賜りたく存じます。

# 研究同人

【 校 長 】 戸部 秀之  
【 副校長 】 神田 佳明

【 養護教諭 】 岡田 将子

## 【 教 諭 】

〈小学部〉  
遠山 秀雄  
大崎由香里◎  
石川 和宏○  
永倉 充  
飯田 貴子  
仙石 大吾  
岩崎 有香  
新井 真由  
加藤 和子  
吉成ちゆき  
丸山 碧  
渡部真由子  
丑木 紅音

〈中学部〉  
村瀬太一朗  
三浦 駿介○  
鈴木 健太○  
加藤 智子  
松岡 加織  
谷内田 怜  
春日 知花  
今井あゆり  
小澤木綿子  
松原 朋世

〈高等部〉  
田上 智明  
綿谷 衛○  
柳澤 真美○  
佐藤 容亮  
茂木 絢美  
関根 貴博  
吉田 祥子  
若林 大輔  
安藤 剛史  
森 智彩登  
勝部 慶子

◎：研究主任

○：研究企画係